

「幼児教育・保育の質」を高める園の学校評価

～ 栃木県の実態を踏まえて ～

幼稚園では「学校評価」、幼保連携型認定こども園では「教育及び保育等に係る評価」、保育所では「自己評価」と名称は異なりますが、各幼児教育施設では、教育・保育の質の向上を目指して教育活動や運営等に関して評価し、改善を図るための措置を講じることが重要です。



学校評価を実施するとどのようないいことがあるのか聞いてみました!

Q

自己評価・学校関係者評価は、効果があると思いますか。

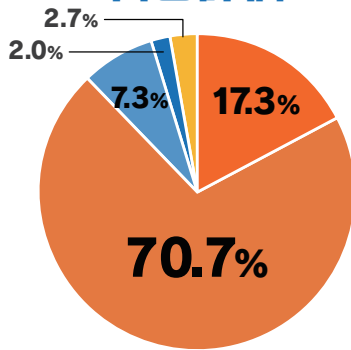


Q

学校評価を実施することで、どのような効果があると思いますか。

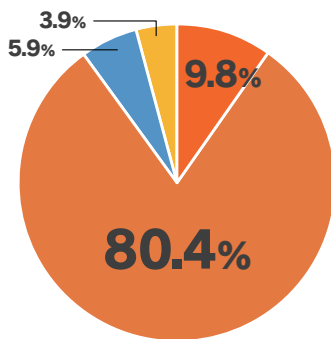
A

自己評価



88.0%の園が大いに効果がある効果があると思うと回答

学校関係者評価



90.2%の園が大いに効果がある効果があると思うと回答

■大いに効果がある ■効果がある ■あまり効果がない
■全く効果がない ■わからない

A



園の課題を共有することができます 66.7%



教職員の参画意識が向上します 50.7%



保育内容が充実します 46.0%



教職員の連携協力が強化されます 42.0%

その他

- ・保護者や地域の理解と協力が得られる
- ・園の課題を客観的に捉えられる
- ・園の教育環境の整備につながる
- ・開かれた学校づくりが促進される など

栃木県の幼稚園・認定こども園の学校評価に関する実態調査
(2021.9実施)
幼稚園(幼稚園型認定こども園含む)61園(回収率82.4%)
幼保連携型認定こども園97園(回収率80.8%) より回答

本リーフレットは、「栃木県の幼稚園・認定こども園の学校評価に関する実態調査」を基に、本県の学校評価に関する実態を踏まえ、学校評価の概要や方法について示しました。

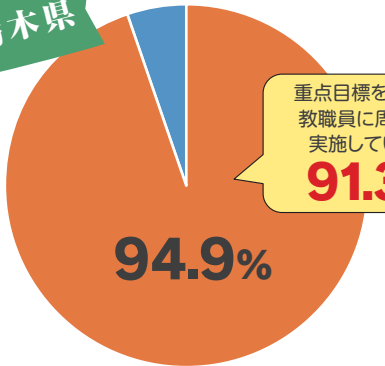
ぜひ、各幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所で学校評価等を実施する際の参考にしてください。

学校評価の実施率

自己評価

園長のリーダーシップの下、全教職員で、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について行うもの

栃木県

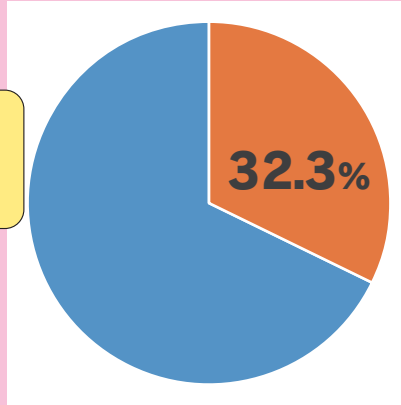


重点目標を設定し、教職員に周知して実施している園

91.3%

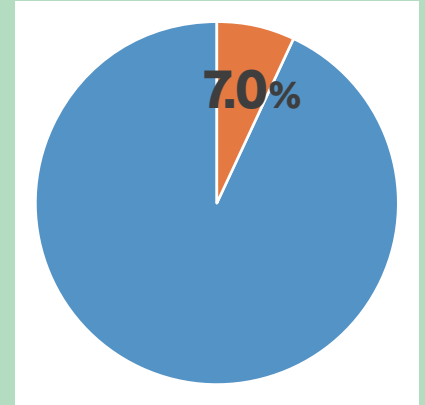
学校関係者評価

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行うもの



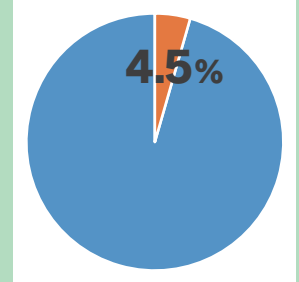
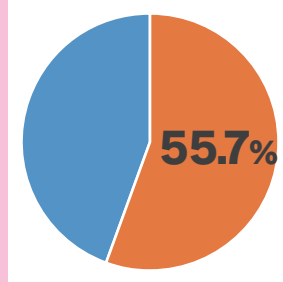
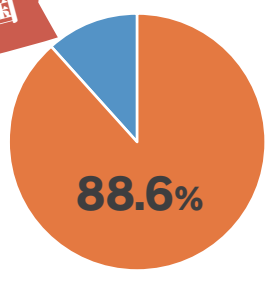
第三者評価

園とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、専門的視点から行うもの

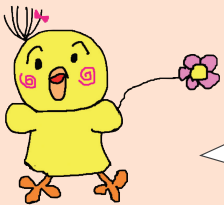


全国の学校評価の実施率と比べてみると

全国



■実施 ■未実施



全国と比較してみると、栃木県は自己評価や第三者評価の実施率は上回っていますが、学校関係者評価の実施率は下回っています。

法令において努力義務である「学校関係者評価」の実施率が低い理由として「やり方がわからない」「難しそう」という意見が多くありました。

学校評価Q&A



Q.何から始めればいいですか？

A.園全体で重点目標を設定しましょう！

日々の保育、行事等の振り返り、保護者アンケートの結果から見てきた共通の課題等を集め、今年度、特に頑張っている取り組むことを決め、それを重点目標にし、園全体で共有します。



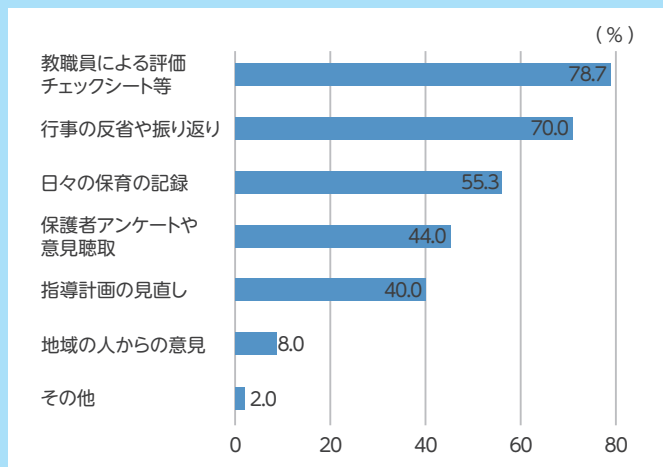
Q.評価項目はどうやって決めるのですか？

A.重点目標と関連付けながら決めます。

「教育課程の実施状況」「教員の育成や組織運営」「開かれた学校(園)としての園運営」など、バランスよく設定することによって、全体を見渡せる学校評価となります。

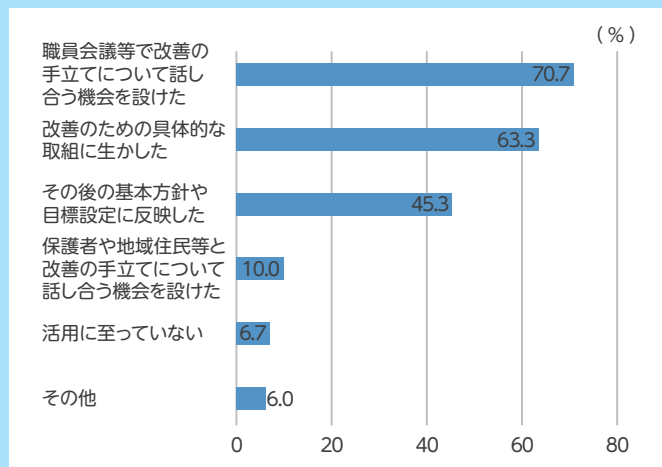
自己評価

何をもとに実施していますか？



いろいろな方法で自己評価を実施し、様々な角度から園の教育活動や運営を見直していることが分かりました。

どのように活用していますか？



多くの園は職員会議等で手立てを話し合ったり、具体的な取組に生かしたりしていましたが、活用に至っていない園も見られました。

自己評価は行った後が大切!!

チェックシートや面談の結果を個々の教職員の反省として終わりにするのではなく、そこから取組の成果や課題を見つけ、学年や園全体で教育活動や運営の改善に結び付けていくことが大切です。

保護者アンケートで、よりの確な自己評価に!!

保護者アンケートは、自己評価の一部です。保護者の立場からの率直な意見を聞くことで、評価に客観性が増し、よりの確な自己評価になります。「開かれた学校(園)」として保護者の意見を踏まえ運営改善につなげていくことが大切です。

公表して、頑張っていることをたくさんアピールしましょう!!

保護者や地域住民等と結果を共有している園はわずかでした。ぜひ、自己評価の結果を園便りや学校関係者評価委員会等で公表し、日頃の取組をアピールすることで、園の強味にしてください。



Q.忙しくて話し合う時間がとれません。どうしたらいいですか？

A.職員会議や打合せ等の時間を利用したり、ICT等を活用したりして、時間を生み出してみましょう。

そのためには、「学校評価の実施は、園の教育・保育の質を向上させるために必要なもの」という教職員の意識改革が必要です。



具体的な評価項目や公表シートの例はこちら!自園化して活用してください。
「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成23年改訂〕」文部科学省(2011)
https://www.mext.go.jp/content/20200120-mxt_kouhou02-000004226_02.pdf



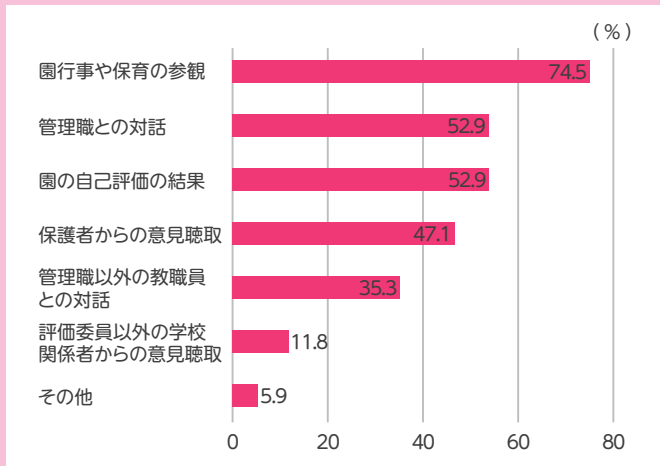
Q.次年度への改善に、どのように生かしていけばいいですか？

A.課題を整理し、優先順位を決めましょう。

重要性や緊急性を検討し、すぐに対応しなければならないもの、長期的に対応していくものなどに分けてみましょう。具体的に今後の方策を考え、見直しをもって改善していく必要があります。

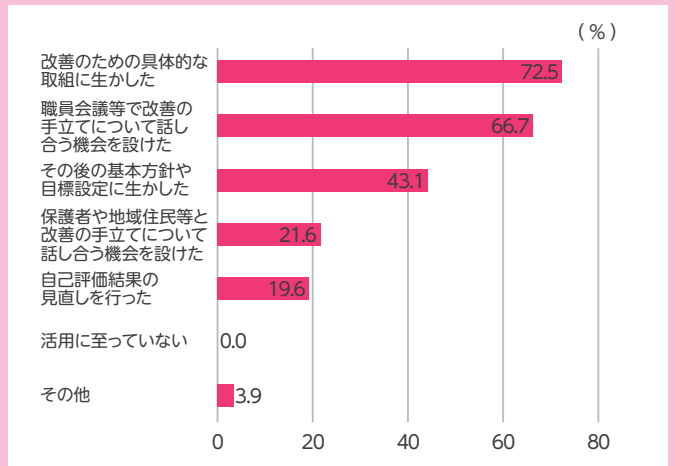
学校関係者評価

何をもとに実施していますか？



学校関係者に園行事や保育を参観してもらうことで評価を実施している園が多いことが分かりました。

どのように活用していますか？



実施している全ての園が学校関係者評価を様々な方法で活用していることが分かりました。

学校関係者評価で自己評価の客観性・透明性が高まります!!

学校関係者評価は、自己評価の結果や今後の改善方を学校関係者評価委員会等で公表し、「重点目標や自己評価の項目は適当か」、「園運営の改善に向けた取組は適切か」などについて意見を聴取し、改善につなげていくための評価です。自己評価の客観性・透明性を高めるために必要なものです。

学校関係者評価で「園の応援団」を増やしましょう!!

学校関係者評価を実施すると保護者や地域住民とコミュニケーションを図ることができます。園への意見・要望だけでなく、委員からの具体的な改善策の提案、保護者や教育委員会等への要望などにも着目しながら、改善に生かしていくといいでしょう。

園の理念や方針を理解してもらい、「園の応援団」を増やしましょう!!



Q.学校関係者評価委員は、誰にお願いしたらいいですか？

A.園の活動や理念を理解してくれている人たちにお願いしましょう。

保護者、地域の住民、接続する小学校の教職員、他園の教職員、卒園生や元保護者などが考えられます。それぞれの立場や視点からの意見が、園にとっては貴重な気付きになります。



Q.学校関係者評価委員会は、いつ、どのように実施したらいいですか？

A.会議の回数や開催時期は様々です。

例えば、1回目を5月頃に実施し、園の現状や課題、経営計画、重点目標などについて理解を図ります。2回目は10月頃に実施し、取組の進捗状況を説明し、意見を聴取します。3回目は1月頃に実施し、評価結果のまとめをして、結果の公開につなげていきます。

学校評価の全体像のイメージ

流れ	自己評価	学校関係者評価
<p>3月</p> <p>Action (改善)</p> <p>評価の準備</p> <p>Plan (計画)</p> <p>目標等の設定</p>	<p>○重点目標等の設定 → 評価項目等の設定</p> <p>【例】</p> <p>園長: 昨年度の自己評価や学校関係者評価での御意見から、今年の重点目標は「十分に体を動かし伸び伸びと戸外で遊ぶ子どもの育成」にしましょう!</p> <p>評価項目は、園内研修で話し合い、次の4つに決めました。</p> <p>「多様な体の動きを引き出す教材の工夫」 「魅力的で安全な園庭の環境整備」 「やる気を引き出す保育者の関わり」 「発達に応じた効果的な地域の活用」</p> <p>園長</p>	<p>○学校関係者評価委員の構成の検討 → 依頼、委嘱</p> <p>○評価活動計画の策定</p> <p>【例】</p> <p>園長: 園の理念をよく理解してくれている地域の自治会長と卒園生の保護者、となりの小学校の校長先生と保育所の園長先生にお願いします!</p> <p>いつ、誰が、何をしたらいいのか、評価の計画を立ててみんなで共有しよう。</p> <p>園長</p>
<p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>D。 (実行)</p> <p>教育活動の実践及び見直し</p> <p>Check (評価)</p> <p>評価公表</p> <p>Action (改善)</p> <p>次年度の評価の準備</p>	<p>重点目標等を保護者と共有する。 (保護者会での説明、ホームページへの掲載等)</p> <p>○重点的な目標等を十分考慮した教育活動の実施</p> <p>【例】</p> <p>教育課程・全体的な計画の編成 指導計画の作成 保育の実践</p> <p>P → D A ← C</p> <p>記録・省察 保育者の自己評価</p> <p>つまり日頃行っているPDCAは、学校評価における自己評価の一部とも考えられます!!</p> <p>○必要に応じて中間評価を実施する。(10月～12月ごろ)</p> <p>重点目標や取組状況を中心に、保護者アンケートを実施し、その結果を公表する。</p> <p>○自己評価の実施→公表 ○設置者への結果報告</p> <p>【例】</p> <p>教職員: 積極的に戸外で遊ぶ子どもが増えました。</p> <p>教職員: 地域の方が声をかけてくれるようになりました。</p> <p>教職員: 安全に気をつかうあまり、指示が多くなりました。もっと、子どもが自分で考えて行動できるようにすることが大切だと思います。</p>	<p>○第1回学校評価委員会の開催</p> <p>・保育の公開 ・重点目標や取組状況などの説明</p> <p>【例】</p> <p>園長: 重点目標や取組についての御意見はありますか?</p> <p>小学校 校長: 小学校の校庭を使ってください。思いきり走ることができますよ。</p> <p>自治会長: 近所に遊具を作るお手伝いしてくれそうな人がいますよ。</p> <p>元保護者: 年少さんにちょうどよさそうな公園がありますよ。</p> <p>○第2回学校評価委員会の開催</p> <p>・保育の公開 ・中間評価の結果や改善策などを議論し、必要な情報を収集 (10月～12月ごろ)</p> <p>○第3回学校評価委員会の開催</p> <p>・保育の公開 ・自己評価を基に、重点目標や取組に対する成果や課題の説明 ・委員からの意見聴取</p> <p>○評価結果の取りまとめ→公表 ○設置者への結果報告</p>
4月	<p>結果を基に改善・次年度の重点目標等へ反映</p>	

実際に学校評価を実践してみたら・・・

認定こども園愛泉幼稚園の実践より



学校関係者評価にチャレンジして、今まで以上に地域の方とのつながりを感じることができました。評価委員の選定は悩みましたが地域の方々や元保護者の方をお願いしてみると、園のことをよく理解してくれ、応援してくれていると感じました。

園長

委員さんに保育内容を伝えたり、保育を見学していただいたりすることは、少し恥ずかしい気がしました。しかし、内容を褒めていただいたり、意見をいただいたりすることで、自分たちの保育を振り返り、自信をもって頑張ろうという気持ちになりました。



保育者

信頼される園づくりにつながる学校評価

栃木県幼児教育センター顧問 神長美津子



幼児教育・保育の質を確保し、保護者や地域の方々から信頼される園づくりのためには、学校評価は欠かせません。学校評価を通して、園のよさと課題を教職員間で共有し改善策を練っていくことが、信頼される園づくりの第一歩なのです。そのためには、学校評価の目的、自己評価と学校関係者評価との関係等について教職員間で確認し、「我が園の学校評価実施プラン」を練っていくことが必要です。「保護者や地域の方々から信頼される」に焦点を当て、学校評価を進める上で大切にしたいことを3点述べます。

第1は、「学校評価の基本は自己評価である」ということです。園の教育活動を振り返り、その成果や課題をまとめた自己評価に沿って、次年度に向けた改善案を練っていくことが、幼児教育・保育の質保証につながります。そのためには、園の自己評価に、教職員一人一人が参画していく仕組みや評価スケジュール等について、組織的、計画的に実施していくことが求められます。「あれもこれも考えていこう」というよりは、「我が園だったらこんな方法で」「今年度はここに重点を置く」等、園の規模や職員構成、園務分掌などの各園の実態に沿って持続可能なプランを立てていく必要があります。

第2は、「学校評価は自己評価が基本である」ことを前提として、学校関係者評価を実施することです。言い換えるなら、自己評価の信頼性と透明性を確保していくために、保護者や地域の方々で構成された学校関係者評価が必要なのです。学校関係者評価では、教職員による自己評価の結果に対するコメントが主ですが、「我が園の学校評価実施プラン」についてもコメントをいただき、学校評価に対する信頼性と透明性を得るようにします。ただし、学校関係者は必ずしも教育や保育の専門家ではないので、幼児教育・保育や、園の教育・保育方針についての丁寧な説明は必要です。園のよさや課題をよく理解している学校関係者だからこそ、現実的な改善策のヒントを得ることができるのです。

第3は、学校評価では、如何にしてP(計画)D(実施)C(評価)A(改善)サイクルの好循環を作っていくかが鍵となります。客観性は必要ですが、客観性を担保しようとして膨大な資料の渦の中には何も見えなくなってしまうのです。学校評価は継続させることに意義があるので、学校関係者による園の自己評価に対するコメントを「外部の声」として受け止めて、年度末に行われる教職員の話し合いを行い、次年度の計画を立てていくことが重要です。

各園の実態に沿って「我が園の学校評価実施プラン」を立てていくことを期待しています。

参考文献:「幼稚園における学校評価ガイドライン」[平成23年改訂]文部科学省(2011)

「実効性のある学校評価の実施に向けて～幼児教育の質向上につながる学校評価ガイドブック～」

公益社団法人全国幼児教育研究協会(2021)

『「保育の質」を高める園評価の実践ガイド』 編著 神長美津子・天野珠路・岩立京子 ぎょうせい(2011)

アンケートの結果は、こちらのURLまたはQRコードから見ることができます

https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/cyosa/PDF/R03_chosakenkyu.pdf



令和3(2021)年度幼児教育調査研究委員会

【委員】

認定こども園 愛泉幼稚園
北原 由香恵
石島 あさみ
齋藤 敦子
矢内 淳子

【事務局】

栃木県教育委員会義務教育課
栃木県幼児教育センター